

月 報	日本キリスト改革派 横浜中央教会	9 月号 2011 年 9 月 1 8 日
--------------	-------------------------------	------------------------------------

この夏、いろいろ思いめぐらしたこと

M. M

若者は幻を見、老人は夢を見る（使徒 2：17）

7 月を迎え、65 歳になりました。この国では 60 歳あたりを「還暦」と称して若いときから老いのときへに移る境目にするようです。で仁高齢社会の現代、60 歳ではまだまだ現役で働く人が多く、年寄り扱いはされたくないと思う入部多いのではないのでしょうか。自分もまた、5 年前には体力、気力も萎えた感じはせず、まだまだ働けると思っていました。

さすがに 65 歳を迎えたいま、身体のうちら二号らに老化を覚えます。今年は 3 月に大震災が起こり、故郷の宮城の実家、甥たちが住む女川や名取は大変な目に遭いました。親族は何とか無事でしたが、多くの被災者のことを思うと安堵してばかりはおられません。やっと再会できた兄とその子らを前に、いつまた大きな地震が列島を襲うかもしれないこの国の危うさに思いがきました。そんなことも影響しているのかもしれませんが、夢の中にとときどき昔を回顧させる場面が出てきたりして、朝起きてひとり苦笑しています。

しかし、個人が老いとともに昔を思うのは仕方ないことかもしれませんが（生理学的必然があるのかどうかは分かりません）、これが社会の風潮になると心配です。というのも、最近、新聞などを見ていると「昔の方が良かった」などの活字を目にするからです。ある時代の思い出や記録に残る良い部分を取り出してクローズアップして見せるマスメディアの手法もとても気になることがあります。映画やテレビドラマならともかく、それが政治に利用されると、ちょっと待ってと言いたくなります。聖書にも、「昔の方がよかったのはなぜか」と言うな。それは賢い問ではない。」（コヘレト 7：10）とあります。キリスト者には、

「後ろのものを忘れ、前のものに全身を向けつつ、キリストイエスによる賞を得るために目標目指して走る（フィリピ 3：13）」ことが勧められています。

主の言葉は永遠に変わることなし（ペトロ 1：25）

世の中は大きくしかも加速的に変化しています。未来学者の A・トフラーという人は加速化社会と名付けて、技術進歩の速さがもたらす目玉ぐるしい社会変化を説きました。江戸の昔、1 ヲ月もかかった東海道の旅が現代では新幹線「のぞみ号」で東京から大阪まで 3 時間もかからず行ける、などが加速化の事例です。そういえば、自分が初めて宮城県の片担奮から東京に來た時代は、蒸気機関車で 12 時間の長旅でしたが、いまは 2 時間少して行けるようになりました。交通手段だけでなく、情報通信、医療、建築、衣食住とあらゆる分野で新技術が起こり、世の中を変えていきます。福島原発などの人災も、ある意味では、エネルギー技術の結果として起きたものと言えるでしょう。世界の国々が近く感じられ、ボーダーレスとかグローバリゼーションの影響を直接・間接に受ける時代にもなりました。当然、良いことばかりではなく、個人としては望まないことも受け入れざるえない現代です。ここで、

「昔のほうが良かった」といいたいくなる気持ちも分からないではありませんが、昔に戻ることは決してないでしょう。キリスト者といえども時代と社会の変化に背いて生きることはできないし、また、主イエスの教えるところでもないと思います。

けれども、私たちには永遠に変わることのない御言葉が与えられています。そして、聖書は「イエスキリストは、きのうも今日も、永遠に変わることのない方です（ヘブル 13：8）」と教えています。だから、世の中が変わっていかうとも、変化に追いつけなくても、主イエスとともに歩むかぎり、私たちが思い煩うことはない。などと、65 を過ぎていろいろ思いが駆け巡る今日二の頃です。

これからのこと

C. Y

ご存知の方もいらっしゃると思いますが、今年の3月で今まで勤めていた乳児院を退職しました。乳児院というのは、養護施設の赤ちゃん版と言えば伝わりますが、児童福祉施設の一つで、家庭の事情で養育できない赤ちゃんを親に代わって養育するところです。

最初の約7年間は保育士として、直接赤ちゃんのお世話をさせていただきました。担当制でしたので、その間計11人の子どもの担当となり（基本一度に2人までですのでそれほど多くないと思います。）、うち2人とは、今でも事後訪問という形でお付き合いをさせていただいています。最初に担当させていただいた子ども達ですので、今は小学校高学年となっています。

その後4年間はFCW（ファミリーケースワーカー）として、子どもたちの保護者の対応や、児童相談所との連絡調整などをさせていただきました。同じ職場とはいえ、部署が変わり、戸惑うことの連続でしたが、多くの方々のフォローや協力があって、何とかやっていけたように思います。

自分の言葉足りなさもあって保護者の方に誤解を与えてしまい、話し合いで解決することもありましたが、解決しきれず攻撃対象となることもありました。そのような時も支えてくれる仲間や上司がいて、何とか乗り切ってきた面が大きいですし、いつもありがたいなあと思っていました。

そのような恵まれた状況にありながら、なぜ辞めたのかということになると思いますが、きっかけはありつつも、今となってはいろんな伏況が絡み合っただけでそのような結論になったのかなあと思います。退職を申し出なければいけない時期と、自分の気持ちが一致してしまったといったところでしょうか。正直、まだ燃え尽きるところまでは言っていなかったと思いますので、頑張ろうと思えば頑張れたと思います。ただ、燃え尽きてしまうと後から回復に時間がかかること、又、ほかにやりたいこともあったので、転職するなら早いほうが良いと思ったこともあります。

いろいろ悩み、祈り求めていたときに、コリントの信徒への手紙10:13の「神は真実な方です。あなた方を耐えられないような試練に合わせることはなさらず、試練と共にそれに田和えられるよう、逃れる道をも備えてくださいます。」を読み、自分に都合の良い解釈かなあ（苦笑）と思いつつも、ひとまず区切りを打つことにしました。

次にどのようなところに神様が遣わしてくださるのか手探り状態ですが、充電しつつ祈り求めていきたいと思っています。

これからの予定

C. Y

執事会だよりがしばらくお休みしてたいへん申し訳ないのですが月報にて今後の活動についてお知らせとお願いをしたいので、よろしくお願いいたします。

10/29 フリーマーケットにて出店します。出店品と当日の販売スタッフを募集していますのでよろしくお願いします。

2012年奉仕分担アンケート配布を10月中旬に行います、配布されたら早めの提出をお願いいたします。毎年スタッフが不足気味な所は礼拝当番と土曜日の掃除当番です。

大掃除をクリスマス前に行います。掃除箇所は執事会で用意してきますが、「ここをやって欲しい、ここをやりたい」という箇所がございましたらご連絡ください。また大掃除当日参加できない方で別の日に「ここをやりたい」と言うかたがいらしたら大歓迎です。用具を用意しますので連絡ください。

クリスマス献金は11月から12月末までうけ付けてます（予算100万円）。少なくとも年内にしてくださいようお願い致します。年を越えると教会会計が12月締めのため維持献金として会計処理させていただきます。1月にクリスマス献金として計上すると毎月累計として計上されてしまい、次の年のクリスマス献金と合わさってしまうからです。

月末主日献金は9月海外伝道、10月CRCメディア（ラジオ伝道）、11月、12月は東北震災（東仙台教会）のためにささげる予定です。

